

◎学習課題◎

■諸子百家についてまとめたスライドや映像、資料集 P212 を見たり読んだりしながらメモを取り、まとめよう。

孔子・・・（紀元前五五二～四七九）

（ ）時代の（ ）の思想家。政治家としても活躍したが、失脚。その後十四年間、周辺諸国を歴訪し、自らの理想を説いて回った。六十九歳で帰国し、以後門弟の教育と古典の編纂に努めた。（ ）の祖である。

『・・・孔子とその弟子たちの問答の言葉を論述・編集した書。孔子の死後、弟子たちによって編纂された。』

■孔子の思想とはどのようなものだろう。「仁」に焦点をあてて

（原文）

子曰。剛毅木訥。近仁。（子路第十三）

（書き下し文）

子曰く、剛毅木訥は仁に近し。

（現代語訳）

先師がいわれた。「剛健な意志、毅然たる節操、表裏のない質朴さ、粉飾のない訥々（とつとつ）たる言葉、こうした資質は、**最高の徳たる仁に近い徳である**」

（原文）

仲弓問仁。子曰、「出門如見大賓、使民如承大祭、己所不欲、勿施於人、在邦無怨、在家無怨。」

仲弓曰、「雍雖不敏、請事斯語矣。」

（書き下し文）

仲弓仁を問ふ。子曰く、門を出でては大賓を見るが如く、民を使ふには大祭に承るが如く、己の欲せざる所、人於施す勿らば、邦に在りても怨無く、家に在りても怨無し。

（現代語訳）

仲弓が仁についてたずねた。先師はこたえられた。「門を出て社会の人と交る時には、地位の高下を問わず、貴賓にまみえるようにうやまいつつしむことがいい。人民に義務を課する場合には、天地宋廟の神々を祭る時のように、恐懼するがいい。自分が人にされたくないことを、人に対して行つてはならない。もしそれだけのことが出来たら、国に仕えても、家にあっても、平和を楽しむことが出来るだろう。」

（原文）

子曰。不仁者。不可以久處約。不可以長處樂。仁者安仁。知者利仁。（里仁第四）

（書き下し文）

子曰く、不仁者は以て久しく約に処（お）るべからず。以て長く樂しきに処るべからず。仁者は仁に安んじ、知者は仁を利とす。

（現代語訳）

先師がいわれた。「不仁な人間は、長く逆境に身を処すことも出来ないし、また長く順境に身を処することも出来ない。**それが出来るのは仁者と知者であるが**、仁者はどんな境遇にあつても、仁そのものに安んずるが故にみだれないし、知者は仁の価値を知って努力するが故にみだれない。」

（原文）

子曰。巧言令色、鮮矣仁。（学而第二）

（書き下し文）

子曰く、巧言令色、鮮（すく）なし仁。

（現代語訳）

先生（孔子）はおっしゃいました。「人に気に入られるように、口先でうまいことだけ言つて中身が伴わない人間には、**仁の心がないものです**。」と。

◎学習課題◎

☆孝悌

（原文）

有子曰。其人為也、孝弟而好犯上者、鮮矣。

不好犯上而好作乱者、未之有也。

君子務本、本立而道生、孝弟也者、其為仁之本與。（学而第二）

（書き下し文）

有子曰く、其の人と為りや孝弟（こうてい）にして、上を犯すを好む者は鮮（すく）なし。

上を犯すことを好まずして、乱を作（おこ）すを好む者は、未だ之れ有らざるなり。

君子は本を務む。本立ちて道生ず。孝弟なる者は、其れ仁の本為るか。

（現代語訳）

有子がおっしゃいました。親思いの者が、目上のものに逆らうようなことは少ないでしょう。

目上の人に逆らうことを好まないで反乱を起こしたものはいません。君子というものは、物事の根本を大切にしている人です。親思いで目上の人を敬えるということは「仁」を得るための根本と言えるでしょう。（学而第二）

☆忠

（原文）

樊遲問仁。子曰、居処恭、執事敬、与人忠、雖之夷狄、不可棄也。

（書き下し文）

樊遲（はんち）は、仁を問う。子曰わく、居処（きょしょ）は恭（きよう）に、事（こと）を執（と）りて敬に、人に与（ま）じわりて忠なること、夷狄（いてき）に之（ゆ）くと雖（いえど）も、棄（す）つるべからざるなり。

（現代語訳）

樊遲（はんち）が仁について尋ねました。孔子は、「家では恭しく（礼儀正しく）、仕事では慎重に、人々に対しては誠実に振る舞いなさい。これらは例え未開の地へ行っただとしても忘れてはならない事だ。」と答えられました。（子路第十三）

☆信

(原文)

有子曰。信近於義、言可復也。恭近於礼、遠恥辱也。因不失其親、亦可宗也。(学而第一)

(書き下し文)

有子曰く、信、義に近ければ、言復むべきなり。恭、礼に近ければ、恥辱に遠ざかる。因ること其の親を失わざれば、亦宗(たつと)ふ可(べ)きなり。

(現代語訳)

有子先生はおっしゃいました。『約束したことが正義になつていれば、約束どおりにそれを果たすべきです。つつしみが礼になつていれば、恥をかくこともありません。人に頼るときには、頼れる人にきちんと頼るべきであり、その人があなたにとって正しい人であれば、その人のことを尊ぶようにすべきです。』

☆恕

(原文)

子貢問曰。有一言而可以終身行之者乎。子曰。其恕乎。己所不欲。勿施於人。

(書き下し文)

子貢、問いて曰く、一言にして以て終身之行うべき者有りや。子曰く、其れ恕か。己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ。

(現代語訳)

子貢がたずねた。「ただ一言で生涯の行為を律すべき言葉がございましょうか」先師がこたえられた。「それは恕だろうかな。自分にされたくないことを人に対して行なわない、というのがそれだ」

☆克己

(原文)

顏淵問仁。子曰、「克己復礼為仁。一日克己復礼、天下歸仁焉。為仁由己、而由人乎哉。」

(書き下し文)

顏淵仁を問ふ。子曰はく、「己に克ちて礼に復るを仁と為す。一日己に克ちて礼に復れば、天下仁に歸す。仁を為すは己に由る、而して人に由らんや。」と。

(現代語訳)

顏淵が仁について尋ねました。孔子先生がおっしゃるには、「自分に打ち勝つて礼に立ち返ろうとすることが仁である。一日自分に打ち勝つて礼に立ち返ることをすれば、世の中はその人の人徳に帰伏するであろう。仁を実践することは自分(の振る舞い)によるのであって、どうして他人に頼るものであろうか、いやそうではない。」と。

◎学習課題◎

■次の『論語』の文を読み、分かりやすく図化してみよう。

（原文）

子曰、学而不思則罔、思而不学則殆。

（書き下し文）

子曰く、学びて思わざれば則ち罔し（くらし）、思いて学ばざれば則ち殆し（あやうし）。

（現代語訳）

孔子先生はおっしゃいました。「学んで、その学びを自分の考えに落とさなければ、身につくことはありません。また、自分で考えるだけで人から学ぼうとしなければ、考えが凝り固まってしまい危険です」と。

■図化する際に考えたいことは何だろう。

■「仁」「孝悌」「忠」「恕」「信」「克己」のそれぞれの関係をシンキングツールを使って分かりやすく図化してみよう。

- ① 『論語』ではそれぞれをどのようにとらえているか
- ② それぞれはどのように関係しているか
- ③ 叙述を根拠にしながら図化し、説明できるようにしよう
- ④ 思考ツールは組み合わせて使ってもよい

◎学習課題◎

■ 前時までに考えた「仁」の捉えについて、交流しよう。

☆交流の流れ

Goal Start Zero

自分の考えを学習プリント No. 10、No. 11 を読んで再確認する。

順番に「仁」とは何かについて自分の考えを発表する（一人 1:30）

他の人と交流しながら「仁」についての考えを広げたり深めたりする（9:00）

① 自分の考えとの共通点や相違点はなにか？

↓なぜそのような考えになったのか議論してみよう

② 新たに生まれた問いはないか？

↓学級でも共有してみよう

自分の考えを述べるときには、内容をきちんと踏まえたうえで発表する。図化したものは補助的に活用する。

■ 交流を受けて「仁」に対する考えはどのように変化しただろうか。

■ 【単元学習シート】「仁」のある人とは？（具体の姿を書いてみよう）

◎学習課題◎

■ 「仁」のある人とはどのような人なのだろうか？前時の考えをもとに交流をしてみよう。

■ 二千年以上前の書物『論語』が今もなお読まれている理由とはなんだろうか。